

# 町田通勤寮だより

NO 71  
2018年 9月

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

〒194-0045 東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042 (739) 0491

## 巻頭言

7月12日～13日に開催された「関東地区知的障害者施設長等会議」に参加いたしました。今年は、東京開催ということもあり、例年秋に開催している「東京大集会」を12日に盛り込んで、多くの参加者がありました。

今年開催される会議では、必ず「報酬単価の見直しと制度の見直し」問題が提起され、これからの障害福祉の動向についての議論がなされます。国の方針として「入所施設は作らない」とされる中で、重度障害者の「居場所」としてのグループホームが思いのほか増えていない現実が論議されます。

通勤寮のような「軽度知的障害者」の議論は少数派の議論になりがちです。だからこそ、胸を張って主張をしていきたいと考えます。

9月5日には、関東地区宿泊型協議会職員研修として、昨年、建て替え移転した「大田通勤寮」の見学と「触法障害者」についての研修会に参加しました。町田通勤寮でも「矯正施設」からの受け入れの経験はありますが、なかなか上手くは行っていません。講師の話の中で心に残ったのは「生きにくさ」の

連鎖という言葉と、本人の意思とは無関係な「しなくてもいい経験」という言葉でした。利用者に寄り添った支援を更に心がけていきたいと思えます。

最後はいつものスポーツネタから。今年の「甲子園」は100回記念大会ということでの盛り上がりで、「春夏連覇」「金足農業」など話題の多い大会でした。結果は史上初の2度目

の「春夏連覇」という結果でした。『タイブレーク制の導入』や例年以上に「猛暑」「酷暑」の中での試合のため、健康管理上の様々な課題も指摘されました。『プレイヤーズファースト』で改善されていくことを願っています。

## ボーリング大会・納涼会

7月21日(土)、ボーリング大会・納涼会(ピザ食べ放題)が行われました。

支援員 新井 政暁

ボーリングの会場となったのは町田のラウンドワン。職員よりも利用者さんの方が詳しく、行き慣れた場所のひとつでもあります。チーム分けのあやで、普段はあまり接点のない利用者さん同士が同じチームとなることもありました。しかしボーリングがあまり得意ではない利用者さんに、普段はほぼ交流のない熟練の利用者さんが率先して手ほどきしている光景が見られるなど、終始あたたかい雰囲気では進みました。目標点数や楽しみ方は異なれど、利用者さんたちはみな、楽しく和気藹々と大会を過ごることが出来たように思います。

ボーリングの後は、徒歩で移動して町田のイタリアン食べ放題のお店へ移動。毎年焼き肉バーベキュー食べ放題が定番になっておりましたが、今年度は肉が苦手な利用者さんもおられることもあって、少し趣向を変えてみました。

職員を入れて各テーブル4名前後で食事をしましたが、ボーリング大会同様、普段あまり交流のない利用者さん同士が会話をするきっかけになったように思います。注文をしたりピザを取り分けてくれる方、食べることに集中する方、食事よりも会話に夢中な方、それぞれの個性が出て、良かったと思います。

普段の通勤寮生活では一人で食事をすることが多い利用者さんにも笑顔が見られ、決して無理をする必要はないと思いますが、何を食べるかよりも誰と食べるか、誰かと食事を共にすることの良さや幸せを、今後の人生を通して少しずつ感じていってほしいと、その笑顔を見て思いました。



## 携帯講座 (KDDIスマホ・ケータイ安全教室)

支援員 浅田 恵理子

8月24日、通勤寮食堂にて携帯講座を実施しました。

- ① 課金
- ② メール
- ③ LINEトラブル
- ④ リベンジポルノ

と4つのテーマに沿ってお話して頂けるように依頼をしてありました。

アニメの映像をみて、講師の説明を受けて終わるのではなく、近くに居る人同士でグループ討議をし、自分たちで何がいけなかったのか？どうしたらよいのか？など話し合っ、発言するなど真面目に取り組むことが出来ました。

スマホはとても便利だけでもトラブルなどを恐れて使わないのではなく、使い方を知って上手に使うことの大切さを教わりました。

## テーブルマナー講座

支援員 西岡 理智子

9月8日(土) ベストウエスタンリゾートホテル東京町田にて、テーブルマナー講座を行いました。自治会の方の挨拶で開始し、講師の方のなぞなぞや豆知識を交えながらのお話を皆さんしっかりと聞きながら、豪華な食事をいただきました。

1年目の方が多く、フルコースの食事は初めての方、ナイフとフォークは外側から使うということを知ったという方もいらっしゃいました。講師の方へ進んで質問をする様子もあり、皆さん緊張しながら真面目に参加されていました。

後半は緊張もほぐれ、各テーブルごとに会話を楽しみ、「テーブルマナーとは食事を楽しむこと」という講師の方のお言葉を皆さん実感されている様子

でした。



## 余暇支援

支援員 入江 就仁

8月22日(水)東京善意銀行様の招待により東京ドームでの野球観戦が実現されました。以前、利用者さんから野球観戦をしたいという希望があり、今回、北海道日本ハムファイターズと福岡ソフトバンクホークスの試合の観戦に至りました。利用者さん3名・職員1名で観戦に行きましたが、招待席が一塁側の前列より14列目ととても良い席で、選手のウォーミングアップやキヤッチボールなど近距離で見ることができ、利用者さんとても気持ちが高ぶっていました。

当日の試合は日本ハムファイターズの清宮選手がホームランを打ち、会場内も盛り上がり利用者さん、同行職員ともに喜びを共感し、ハイタッチを交わすなどプロ野球会場特有の雰囲気も味わう事ができました。帰寮時間の都合

上、最後まで観戦とはいきませんでしたが、観戦した利用者さん口を揃えて「また見たい」「興奮した」「雰囲気最高でした」と話しており、仕事に精を入れている日々の中で、つかの間のひと時を過ごすことができた様子でした。

## 調理実習

栄養士・調理員 遠藤 小百合

8月19日(日)、調理実習を行いました。

夏の暑さを乗り切るために「パパッと手軽に作れるスタミナ料理」と題して、時短で作れる献立4品「スタミナ丼・アボカドキムチ奴・もずくとオクラのスープ・白玉団子」に挑戦しました。

今回は体験入寮で来られていた方も参加して下さい、男性4名といつもより少し賑やかな実習となりました。参加されたみなさんの手際がよく、また手軽さをウリにした献立でしたので、ご飯が炊きあがると同時に盛り付けに取りかかれるほど、あっという間に料理が完成しました。何度か実習に参加されている利用者さんが多く、回数を重ねることに包丁さばきが上手になっていく様子が見受けられ、とても嬉しく思っています。

スタミナ丼のひき肉は、消化も良く、疲れた胃の負担を和らげてくれます。キムチは乳酸菌が便秘解消によいですし、アボカドは抗酸化作用があるので老化防止にもつながります。もずくに含まれるぬめり成分のフコイタンは、コレステロールを下げる効果があります。

9月に入りいくらか暑さは和らぎましたが、体の疲れはこれから出てきます。疲労を回復させてくれる食材はたくさんありますので、どうぞ食事のとり方を考えて体をいたわって下さい。

次回の調理実習は10月14日(日)を予定しております。たくさんのご参加お待ちしております。





## 国立障害者リハビリテーションセンター見学

支援員 小林 美樹

多摩南部就労支援連絡会主催の「国立障害者リハビリテーションセンター」へ7月11日見学して参りました。

埼玉県所沢市に在ります「国立障害者リハビリテーションセンター」は、昭和54年に開設され、現在は障害のある方達の自立した生活と社会参加を支援するため、医療・福祉サービスの提供、新しい技術や機器の開発、国の政策に資する研究、専門職の人材育成、障害に関する国際協力などを実施している国の組織で、病院・自立支援局・研究所・学院・企画・情報部・管理部の6部門が設置されています。こちらには就労移行支援や自立訓練等のサービスが効果的に活用出来るように通所が困難な方に夜間等における居住の場も提供

されています。

今回の見学は所要時間90分・ビデオによる案内30分、所内見学60分で進められていきました。ビデオでは概要説明、所内見学は就労移行支援・障害のある方の「働きたい」を支援する部門を主に見学させていただきました。パソコンを使つての高度な訓練、ホテルの室内清掃・ベッドメイキングを想定した訓練の技術習得訓練、封入作業など職場体験訓練のサービスが提供されています。

希望者は年間300名、その内入所される方は200名、利用期間は24か月以内の必要な期間、就職率は80〜90%（求人数によって変動が有るそうですが）その他では、服薬管理支援・公共交通機関の利用訓練など社会生活力を高める支援も同時に提供されています。

広大な敷地の中に各部門が配置されていて訓練場所も広く集中して訓練出来る環境が揃っています。しかし関東近郊では所沢と秩父の2か所のみ、国内では6か所だけです。そして、この恵まれた環境を経験できる障害者は限られた方のみとなっているのが現状です。このセンターを利用できない方達にも同じようなサービスが提供できる環境が整えられる事を願っています。

## 関東地区宿泊型訓練事業等協議会職員研修会

主任支援員 武智 里峰

9月5日、東京都の通勤寮5寮（立川通勤寮は欠席）と、関東周辺の通勤寮計11寮合同で、研修会が行われました。研修内容は、『生きにくさを抱えた人たちの支援』と司法と福祉の連携と評し、日本障害者協議会の理事、そして弁護士でもある赤平守氏を迎えて、講義が開催されました。

現在、日本の知的障害者は100万人（手帳取得者）だが、知的であろう（IQ70以下で手帳未取得者）…という人も入れると、約300万人、三年前は手帳取

得者は74万人と言われていたが、かなり増えているとのこと。

殺人事件は1960年を境に減ってきている。府中刑務所も多いときには300人、現在では200人。その中に障害者は知的（手帳なしも含む）・聾・盲目・車いすの方もおり、刑務所全体の25%〜30%を占めている。受刑者が捕まった時の所持金は500円以下。結局、金銭を持っていない状態で窃盗等繰り返してしまい、刑務所に入ることになってしまう。その背景には、騙されてしまったり、ヤクザに使われてしまったりと、自分の意志とは関係なく、普通の社会経験が少ない（社会が怖い）ことから、しなくてもよい経験をしてしまい、ある意味、彼らは被害者でもある。

刑を終えた人の行く先が問題にもなっている。例えば知的であれば通勤寮等でも受け入れているが、現状、卒業する前に精神病院に行くことになってしまったり、折角GHが決まっていたのに、知人の存在があった故に流れてしまったり、職も失い、住む所もままならない状態になってしまう人、再犯で刑務所に戻る場合等、完全な社会復帰は難しい…。各通勤寮では壁にぶち当たっている状況もある。

支援に行き詰ってしまう場面も多く、経験がないから…、スキルが無いから…、何かあったら…とネガティブに考えてしまい、受け入れを悩んでしまう事も多々ありますが、赤平先生は、経験は、経験を積みましよう、スキルは高めましよう、責任は、何かあったら会議をしましよう…と、おっしゃってくださいました。確かに、何もしなければ何も進歩しない、支援の質も上がらないのは確か。支援員の考え方を考え直さないと…と感じました。

まとめ

- ① 障害者・犯罪者の前に人間である。
  - ② 他人と違う事より同じ事の方が多い。
  - ③ 手段と目的の逆転を見逃してはならない。
  - ④ 確かな情報理解力、それを実現できる技術を実践する。
- とおっしゃっていました。

少年院・刑務所からの依頼は、徐々に増えてきています。

私たち支援員は、本人が正々堂々と社会復帰できるように、本人の意思を尊重しつつ、会議・面談を重ねながら対応できるよう、経験とスキルを高める事、ポジティブな考えを持つ勇気が必要と感じました。

## 新任職人紹介

調理員 高橋 典子

このたび8月16日よりお世話になる事になりました高橋典子と申します。過去に学校や病院等で6年程調理の仕事をしていました。最近では、8月15日までは、医療事務に6年間従事しておりました。プランクもあり不安な気持ちもありますが美味しい食事の提供を出来る様に一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

## 今後の主な予定

- 9月15日（土）町内会防災訓練
- 9月30日（日）〜10月1日（月）宿泊訓練（大阪）
- 10月7日（日）クリーンデー
- 11月4日（日）クリーンデー
- 11月10日（土）〜11日（日）テーブルマナー講座
- 11月11日（日）13：30 保護者会・オンブズマン面談（変更の可能性あり）

◆町南通勤寮だよりのバックナンバーはつるかわ学園公式HPよりご覧になれます。

(<http://tsurugaku.sakura.ne.jp/wp01/jigyosho/tsukinryo/ryodayori/>)